

## 畏友「堀 芳孝君」

森 山 貞 夫

堀芳孝君が亡くなられてから、最早や一ケ年にもなりました。

堀君との出合いは、大正6年4月師範学校入学にはじまり、以来60年余の永きにわたっているのです。入学当時の寄宿舎は、至って厳格で規律づくめの旧軍隊のような生活でした。従って下級生には相当苛酷な負担が課せられたものですが、堀君は黙々と真面目に遂行しました。そのため上級生には信望があり、大変可愛いがられました。

本年正月はじめに同級生のH君とK君と私の3人が会合した時、期せずして出た言葉は「堀君は実に頭脳明晰であり、その上謹直で努力一途の頑張屋であった」という事に一致しました。尚K君は「一年生の時に課せられた植物採集の標本を見て、其の数量の多いこと、立派なことに全く驚き、その度をこして憎たらしくさえ当時は思った」と、更に「堀君の父君が奇麗に顔のひげを削って、時々寄宿舎に面会に来られた、あの端正な姿が今も尚、目に浮ぶ」と言っていました。

堀君のあの謹厳な人格は、この家庭この父君によって培はれたのではないかと思います。入学当初から植物採集に情熱をもやし、他の者の追従をゆるさないような標本作りをせられた事を考えますと、すでに将来の歩むべき道に向って始動をはじめられたような気がします。特に舎監長であり、博物担当の栗野信一先生には最も将来を嘱望されていました。戦後何年かたって、英語主任であった桜井信郎先生にお会いして、クラスの話が出た時「君のクラスに堀君という好男子がいたが、今どうしているか」と問われました。30数年前の先生からこんな言葉が出たことは、余程先生に印象深いものがあったのだと思います。又在学中は剣道部に籍を置き、陸上競技部の選手でもありました。校内体育大会で全学年対抗の優勝旗争奪の一端を担うリレー競技には、常に第一走者として活躍し、二年連続優勝の記録をうち立てました。私も走者の一員として共に感激を分かち合ったものです。

卒業後しばらくして生理衛生学の文検に合格し、直ちに県下の名門福井中学校教諭に抜擢されました。これも精進努力の当然の賜でしょう。其後、次から次へと博物学全課目に合格された事は誠に見事なものです。福中に就職された時「私は福中に来てれて本当に良かった。福中の先生方は皆一生懸命に勉強するので大いに刺激になり、自ら頑張らなくてはならないという気持ちが湧いてきた」と話された事があります。福中は堀君にとって最も生き甲斐のある良い環境だったのでしょう。

戦後、光陽中学校長として就任されてからは、同じ立場にある私との関係はとみに親しさを増してきました。常に中学校教育の向上発展に密接な連絡を取りながら励まし合いましたが、私の方が教えられることが多かったものです。校長として同僚として度々旅行を共にしましたが、途中の色々な珍しい植物鉱物などを丁寧に教えてもらったものです。或地方の山畑の道を歩いていた時、畑の中の植物を指さし「あれは何であるか知っているか。あれが僕に最も因縁ある蒟蒻

だ。よく観察しておけ」と言われ、「私はおでんが好きだから良く見ておこう」といって大笑いしたこともあります。

校長としての指導力も抜群で、教員生徒父兄の信頼も絶大でした。卒業式に市長代理として、参列した或る市教育委員は、堀君の卒業生に対する告辞の姿を見て「堀校長の立派な態度姿は真の教育者であり、得がたい学者だ」と、激賞したのを覚えています。福井市長熊谷さんの切なる懇請によって、足羽山に身命を賭して創設された自然科学博物館は、今全国でも異色のものとして、永遠に不滅の光を放つでしょう。君が体を損って館長を辞された時「自分は家庭的にも恵まれ、私事には些かの心配もないから、早く健康を回復して一万点近くある植物標本を整理完了し、天気の良い日には植物園の草取りなどして余生を過したい」としみじみ言われた事が、今も耳に残っています。真に心の底から自然を愛し、足羽山のことを思って出た言葉でしょう。

君が先頭に立って足羽山公園に計画植樹された植物園、色々の花園は見事に成育し四季を彩り、多くの市民に非常な楽しみと、安らぎを与えてくれています。特にあじさい園は県下一の花苑と言っても過言ではないでしょう。私は足羽山朝の会の一員として20年近く山に登っていて、これらの風情に直接しながら、君の人徳、功績を深く偲んでいます。

君が指導された幾多の後継者がこれから益々力を合せ、遺志を受けつがれ、君の功績に恥ない立派な博物館、植物園、花園を育てて行かれる事と確信します。

元明道中学校長 クラスメート